

1. まちづくりの基本的考え方

1-1. まちづくり基本的考え方

神田駿河台地域は、日本大学や明治大学をはじめとして教育機関や医療機関が数多く集まるとともに、ニコライ堂などの歴史的施設や神田川などの景観資源も有し、文化的な「学園のまち」として発展してきた。また、御茶ノ水駅前には商業機能、本郷通り沿いを中心に業務機能も集積し、そこに住み、働き、学び、集う多様な人々が交流する特色あるまちを形成してきている。さらに、秋葉原地域、神保町地域、小川町地域などの個性豊かな「まち」にも近接し、それらの個性とあいまって、今後さらなる飛躍を遂げ得る「力」を内在する地域である。

しかし、神田駿河台地域や周辺地域へのアクセス拠点となる御茶ノ水駅は、混雑しているとともに、医療機関が集積しているにも関わらずバリアフリー化への対応も遅れている。また、まちの玄関となる駅前広場などの歩行者空間も十分には確保されていない状況にあるなど、解決すべき地域の課題も多く残されている。

平成7年には、日本大学、明治大学、JR 東日本などにより、まちづくりの基本的な整備方針となる「神田駿河台地域整備基本計画」策定のための協議を行ったが具体化に至らなかった。

近年、景観や環境に対する意識の高まりなど地域を取り巻く社会状況が変化するとともに、近年の都市再生の動きや大学機能の都心回帰の流れなどを受け、新たな大規模開発の動きもでてきた。

こうした大規模開発が個別に進められれば、「まち」全体に与える影響は極めて大きく、これまで築き上げられてきた「まち」のイメージを一変させるだけでなく、アクセス拠点となる御茶ノ水駅周辺などに多くの課題を抱えた中で、地域全体でバランスがとれたまちづくりを行うには一層困難が予想される。

そのため、今回、地域に内在する「力」を最大限に引き出し、まちの魅力をさらに高めるための新たなまちづくりの第一歩として「まちづくり基本構想」をとりまとめた。

今後は、この基本構想を基本として、住民、企業、行政など地域の全ての主体が連携・協働し、具体的なまちづくりに積極的に取り組むことを期待する。

神田駿河台地域の魅力

日本大学、明治大学をはじめとした**教育機関の集積**
日大附属病院をはじめとした**医療機関等の集積**
歴史的・文化的施設、緑豊かな**神田川**
個性豊かな「まち」（ビジ 拠点大丸有地区、IT 拠点秋葉原、古書店街神保町、ポ ーッ店街小川町等）に**近接**

〔神田駿河台地域整備基本計画策定報告書〕（平成7年）

「文化的、大学・学生のまちを体感できるまちを目指す。」

基本コンセプト

「思索する空間を特徴とするまち “お茶の水”」
開かれたキャンパスタウン

オープンキャンパス

ゆとりあるキャンパス空間
地域への施設の一部開放
大学の活動が体感できる仕組み

アーバンライフ

利便性の高い都心生活空間
居住・在勤・在学のコミュニティ

社会状況の変化

都市再生緊急整備地域の指定
地球環境への配慮
景観意識の高まり
防災への備え
高齢社会に向けた医療、福祉、健康づくり
ユニバーサルデザインの推進
観光振興の積極化
大学活動の活発化

開発動向

明治大学

リバティタワー（H10.9）
アカデミーコモン（H16.4）
明高中の移転計画（H20）
14号館（旧国税庁宿舎）・10号館等の機能更新

日本大学

理工学部1号館
お茶の水キャンパス整備の検討

日立本社の丸の内への移転

淡路町再開発事業

神田駿河台地域まちづくり基本構想

新たな将来イメージを共有する

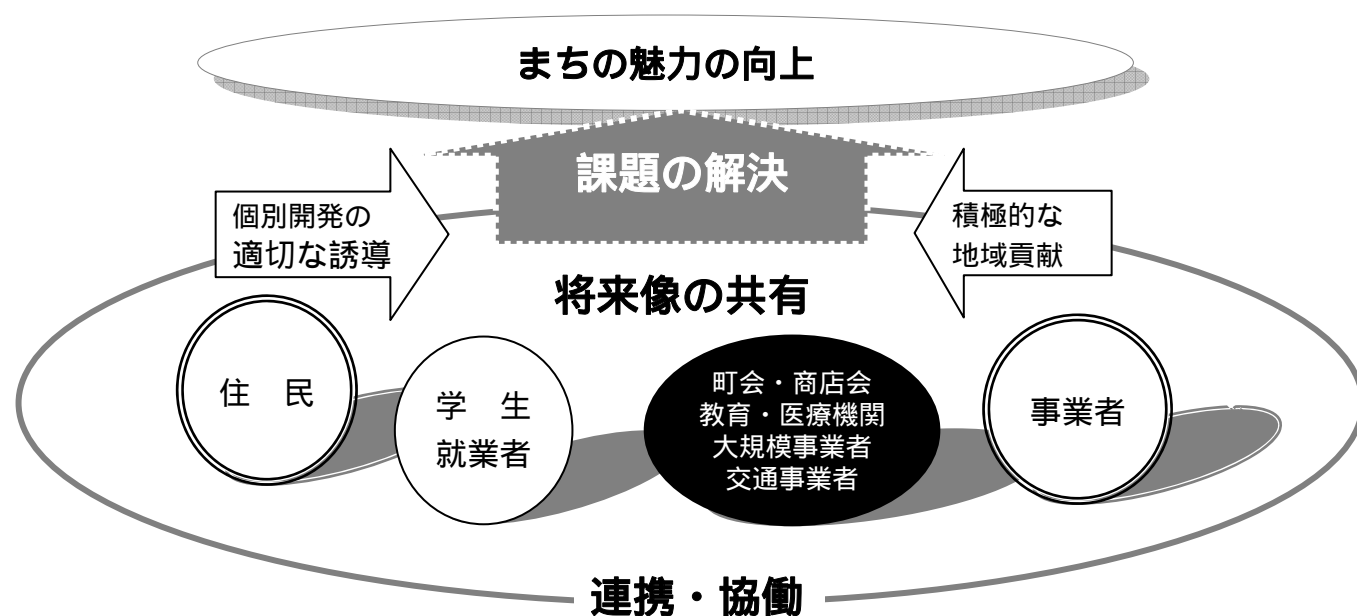
個々の開発が地域全体のまちづくりに積極・具体的に貢献するよう適切に誘導する
神田駿河台地域が内在する「力」を最大限に引き出し、地域が持つ魅力をさらに高める

1 - 2 . 地域主体のまちづくり

これからのまちづくりは、地域の住民、就業者、就学者、事業者、大学、行政等のまちづくりに関係する多様な主体が地域の抱える課題や将来像を共有し、連携・協働により魅力的なまちづくりを段階的に進めていることが必要である。

また、地方分権の流れの中で、地域の実情やニーズに適った個性的で多様なまちづくりを展開するため、行政だけでなく、地域の幅広い参画を得ることも求められているとともに、各種事業についても計画段階からの情報共有によるまちづくりが求められる。

神田駿河台地域においても、地域内の個別開発の適切な誘導、駅及び駅周辺整備等の地域課題の解決に向けた積極的な地域貢献、また地域の持続的な努力と改善を推進するため、多様な主体で将来像を共有し、調和・相乗効果によるまちの魅力の向上を図るため「神田駿河台地域まちづくり基本構想」を策定する。



1 - 3 . 本構想の位置づけ

本構想は、「神田駿河台地域整備基本計画策定報告書」（平成7年3月）の検討経緯や考え方をふまえつつ、「千代田区都市計画マスタープラン」（平成10年3月）、「千代田区まちづくりグランドデザイン」（平成15年5月）をベースに、社会経済状況の変化や周辺地域を含む開発動向を考慮し、まちの将来像とまちづくりの課題、整備の対応などを示すもので、住民、企業、行政など地域の全ての主体が共有する基本的な考え方を集約したものである。

1 - 4 . 基本構想の対象区域

本構想の対象区域は、神田駿河台1～4丁目の全域及び猿楽町1・2丁目の各一部を含む約27haの地域とする。

このほか、淡路町のまちづくりや、靖国通り沿道のスポーツ用品店街等のまちづくりとの連携・協調に留意する。

